

没者五七級  
戸

やくやあら  
大坂

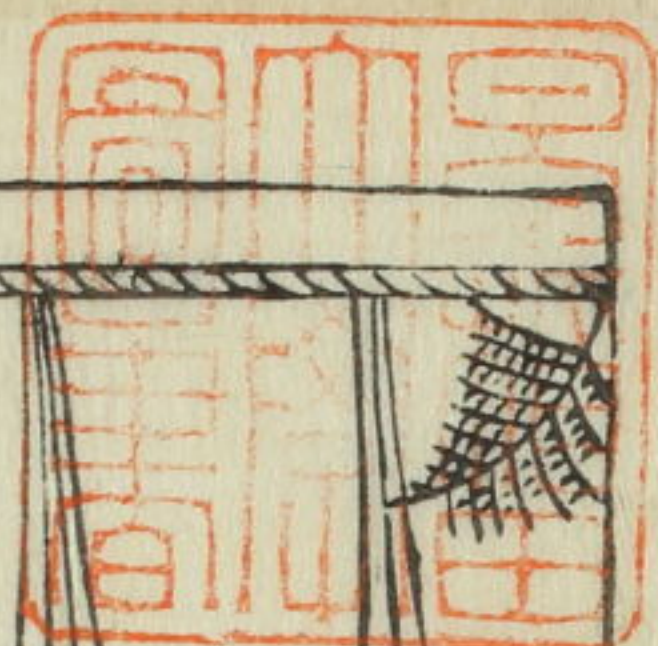
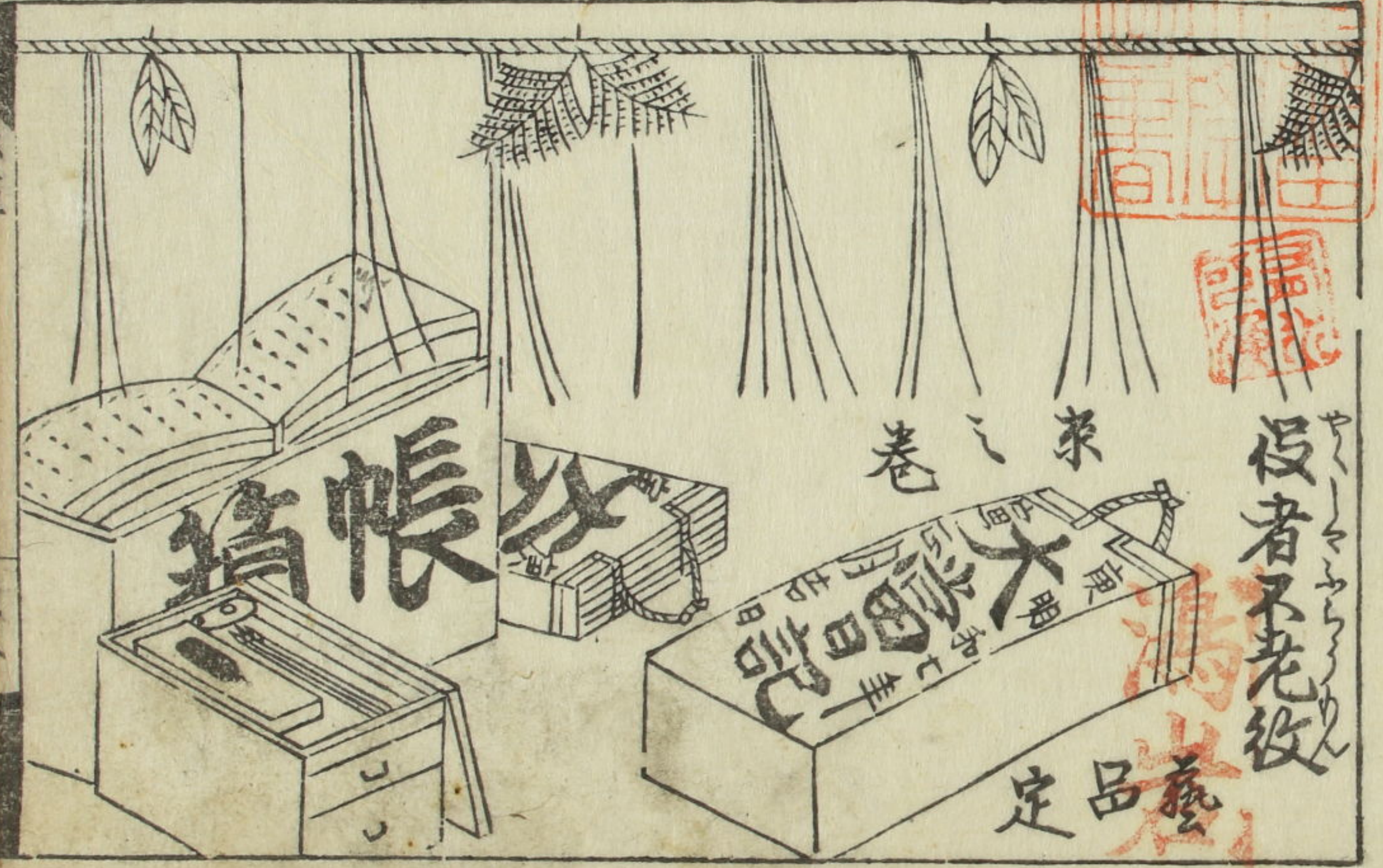
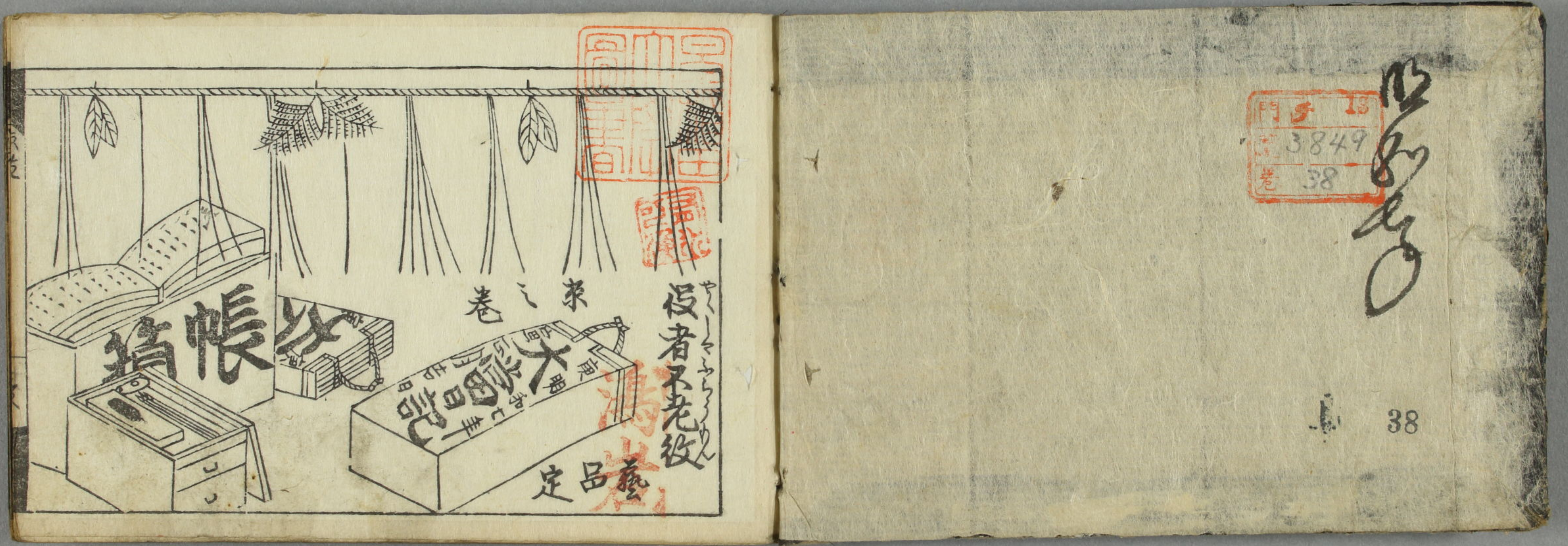
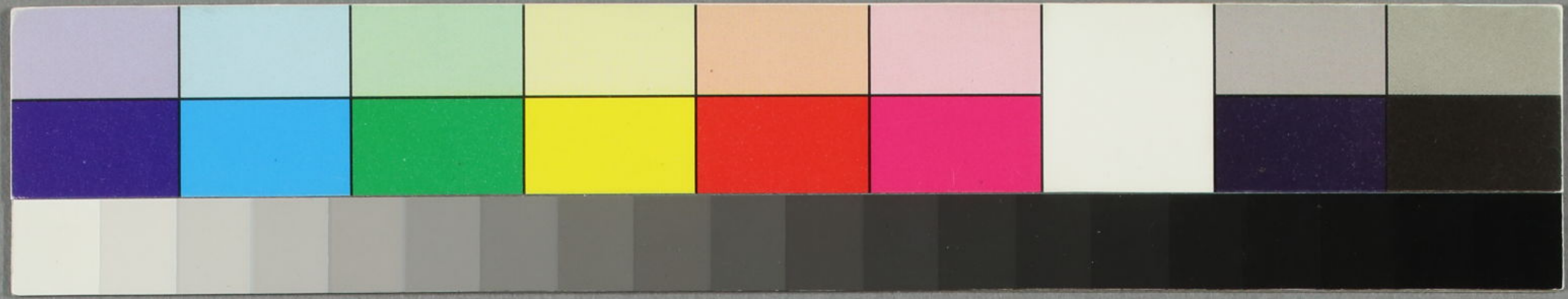
没者不老紋  
京

五十六  
平章

特別  
千 13  
3849  
38





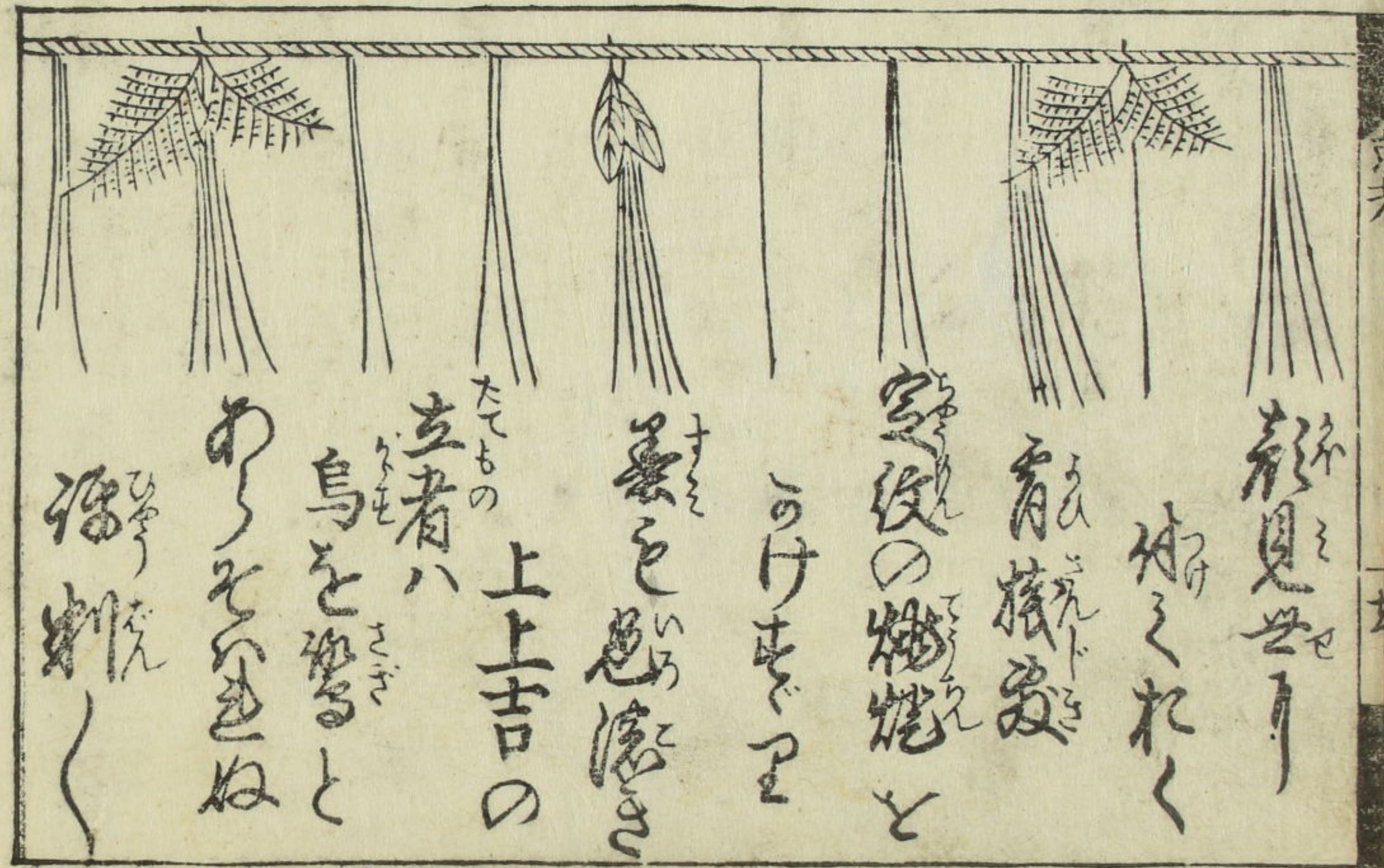


Handwritten signature in cursive Japanese calligraphy.

38







京四条芝居藝後者同派

早長之次 尾上之次

立役之次

上上吉 沢村宗十郎

上上吉 山嵐 三又席

上上吉 中村十郎

上上吉 尾上之次

上上 尾上之次

上上 松屋新十郎

上小倉山三子

上浦山七又席

上小倉山修三席

上嵐八又席



立設奉油

上上吉 中村吉右衛門

武乃のふあての今までの 改葬

▲実悪之部

上上吉 梅山四郎

ころりよあつたふあ 報復

▲款没之部

上上 中村新又市

仕向ふこと申すまて ねんき

上上 中村次市三

新討へふがそのあつたふあ

上上 市川新右衛門

いふを証して出たふあ

上上 中村岩右衛門

かとうふあふあの子のあつたふあ

上中村十七彦 上中村虎市

上中村吉次 上中村又市

▲美形之部

上上吉 嵐 雛助

あつたふあの子のあつたふあ

上上吉 中村道隆

彼でもあつたふあ

上上 尾上久米助

はげあつたふあ

上上 辰川山吾

牛あつたふあ

上上 嵐 盤の井

今あつたふあ

▲及子之分

甲村八重八 とよ 一松山小源右 上 鶴

一嵐山次市 とよ 一尾上大吉 とよ

一山下吉右 とよ 一倉山虎右 とよ

一嵐政吉 とよ 一中村吉吉 とよ

一甲村幾代 とよ 一甲村次吉 とよ

一嵐敏松 とよ 一嵐定次市 とよ

一辰川小吉 とよ 一甲村龜松 とよ



一甲村跡古ヤウ

▲為元形之部

上上 生傳 拓本

此出家の子の出立と松葉

上上 沢村田之助

初より中へ板もろの 小茅

撫上上吉 中村富十郎

巻巻油 若甘形 付ありはたのち板も 水葉

以上

○ちよとあまのやとあまの

山南地はひびきの歌後二人連めて西方乃

舞後津の心事のゆゑに改題は茶室や書

の初六年 五月十九日 俗名中村有十良

久々山岸宗節信士 行年七十七才

昭和六年 十一月十日 俗名山中平十良

一空より順信士 行年三十八才

おのつて山南ひびきの内あろうとあられて

つういされゆせ 二十ニノ

○板山のやとあまの

一南側其居居年三津浦浜希多の寄板より

才一に於初より及無雨定のちよあまの

初より津浦の傳にまをられゆせ

○鬼の母屋は鬼神よりいぬ殺る面

長生殿は妻は秋夜老いひあまの日

月生き言拜好の娘は指吉殿のちよあ

の宿のひさ長神より森五村の書に

は益愛之漸ての長生殿かてまをる老い

又あまの書にまをる守りてまをる後老い

ひるよの書にまをるわをる板の挑は

くは板の板の清光流すよあまの

るまをる書にまをるまをるまをる

あまの書にまをるまをるまをる

あまの書にまをるまをるまをる

あまの書にまをるまをるまをる

あまの書にまをるまをるまをる

あまの書にまをるまをるまをる

あまの書にまをるまをるまをる



























此三つは、徳文の世、今更國の長官に  
ついで、徳文の世、今更國の長官に  
ついで、徳文の世、今更國の長官に  
ついで、徳文の世、今更國の長官に  
ついで、徳文の世、今更國の長官に  
ついで、徳文の世、今更國の長官に  
ついで、徳文の世、今更國の長官に  
ついで、徳文の世、今更國の長官に  
ついで、徳文の世、今更國の長官に  
ついで、徳文の世、今更國の長官に

明和七の徳喜正月作者 自笑

▲立役之部

怪上吉 ◎ 沢村宗十郎

醫叔の世も、換取の世も、  
て、おれおれ、おれおれ、  
おれおれ、おれおれ、  
おれおれ、おれおれ、  
おれおれ、おれおれ、  
おれおれ、おれおれ、  
おれおれ、おれおれ、  
おれおれ、おれおれ、  
おれおれ、おれおれ、  
おれおれ、おれおれ、







Handwritten text in a cursive script, likely a medieval manuscript. The text is arranged in approximately 15 lines. Several words are enclosed in rectangular boxes, possibly indicating specific terms or names. The script is dense and characteristic of Gothic or similar medieval handwriting.

Handwritten text in a cursive script, likely a medieval manuscript. The text is arranged in approximately 15 lines. Several words are enclosed in rectangular boxes, possibly indicating specific terms or names. The script is dense and characteristic of Gothic or similar medieval handwriting.































上上 尾上久家助

○打のぶれに勅書有様  
○打のぶれに勅書有様  
○打のぶれに勅書有様  
○打のぶれに勅書有様  
○打のぶれに勅書有様  
○打のぶれに勅書有様  
○打のぶれに勅書有様  
○打のぶれに勅書有様  
○打のぶれに勅書有様  
○打のぶれに勅書有様

上上 ④ 飯川山君

○打のぶれに勅書有様  
○打のぶれに勅書有様  
○打のぶれに勅書有様  
○打のぶれに勅書有様  
○打のぶれに勅書有様  
○打のぶれに勅書有様  
○打のぶれに勅書有様  
○打のぶれに勅書有様  
○打のぶれに勅書有様  
○打のぶれに勅書有様

上上 ⑤ 山風齋の井

○打のぶれに勅書有様  
○打のぶれに勅書有様  
○打のぶれに勅書有様  
○打のぶれに勅書有様  
○打のぶれに勅書有様  
○打のぶれに勅書有様  
○打のぶれに勅書有様  
○打のぶれに勅書有様  
○打のぶれに勅書有様  
○打のぶれに勅書有様

▲ 為形形之部

上上 齋生齋柏木

上上 ⑥ 沢村田之助

○打のぶれに勅書有様  
○打のぶれに勅書有様  
○打のぶれに勅書有様  
○打のぶれに勅書有様  
○打のぶれに勅書有様  
○打のぶれに勅書有様  
○打のぶれに勅書有様  
○打のぶれに勅書有様  
○打のぶれに勅書有様  
○打のぶれに勅書有様

極上上吉 中村富十郎

○打のぶれに勅書有様  
○打のぶれに勅書有様  
○打のぶれに勅書有様  
○打のぶれに勅書有様  
○打のぶれに勅書有様  
○打のぶれに勅書有様  
○打のぶれに勅書有様  
○打のぶれに勅書有様  
○打のぶれに勅書有様  
○打のぶれに勅書有様



おのれは世に生かされしは幸なりとて  
おのれは世に死なされしは不幸なりとて  
おのれは世に病に罹りしは苦なりとて  
おのれは世に老に及ぶるは哀なりとて  
おのれは世に貧に乏しむるは憂なりとて  
おのれは世に病に罹りしは苦なりとて  
おのれは世に老に及ぶるは哀なりとて  
おのれは世に貧に乏しむるは憂なりとて  
おのれは世に病に罹りしは苦なりとて  
おのれは世に老に及ぶるは哀なりとて  
おのれは世に貧に乏しむるは憂なりとて

おのれは世に病に罹りしは苦なりとて  
おのれは世に老に及ぶるは哀なりとて  
おのれは世に貧に乏しむるは憂なりとて  
おのれは世に病に罹りしは苦なりとて  
おのれは世に老に及ぶるは哀なりとて  
おのれは世に貧に乏しむるは憂なりとて  
おのれは世に病に罹りしは苦なりとて  
おのれは世に老に及ぶるは哀なりとて  
おのれは世に貧に乏しむるは憂なりとて  
おのれは世に病に罹りしは苦なりとて  
おのれは世に老に及ぶるは哀なりとて  
おのれは世に貧に乏しむるは憂なりとて











上上吉 三棒大五帝仕内よりまきけのあり 解あり

上上吉 坂東岩入帝 ▲敵没之部

上上 風 金 妻 わくぶ解りても人のあがる解

上上 ぬ村老 彦 初づいひてあそむる解

上中村友十帝 上山村文三帝

上山下千益 上中村長十帝

上布の川を流 上中村廣七

上中田吉彦 上中山和十帝 ▲美女形之部

極上上吉 芳澤わやめ 仕内よりあつたあひあひあつて香海續

上上吉 沢村國吉帝 美もあつてもとんとらわ

上上吉 沢桐 豊松 一志よりあつたあひあひあつて香海續

上上 市川 吉吉帝 美もあつてもとんとらわ

上上 中村玉拍 美もあつてもとんとらわ

▲及子之分

中村栄次帝 一和川乙吉

一芳次万代 一和川乙吉

一市山龜を帝 一和川乙吉

一三棒松之彦 一和川乙吉

上上 中村性次帝 美もあつてもとんとらわ

惣美被中山与三帝 美もあつてもとんとらわ



○は雨事考（山志）以上  
不教者考（陸考）訂  
鬼黄句選 全部二冊

右ハ修丹の由序（の）叙句叙  
百句集（希）撰定（旅）記法  
附錄（以） 中出才

落日菴荃村輯

誹諧玉藻集 全部一冊

右ハ古人の各考（た）女乃  
叙句と叙百句集（考）

近日出才

板九

○論（金）神論（日）親之如（孔）言（無）

論（金）神論（日）親之如（孔）言（無）  
方失之則（金）身（得）得之則（富）富（無）無  
翼（而）飛（無）足（而）走（解）嚴（毅）毅之  
顔（開）難（發）之（口）錢（多）者（處）先（先）先  
者居後（と）り（金）之（金）之（後）の（金）の（金）  
注（の）也（長）也（定）也（命）也（世）也（世）也（世）也  
く後（の）も（中）も（中）も（中）も（中）も（中）も（中）も  
で（希）也（希）也（希）也（希）也（希）也（希）也（希）也  
ぬ（小）也（小）也（小）也（小）也（小）也（小）也（小）也  
と（希）也（希）也（希）也（希）也（希）也（希）也（希）也  
記（考）也（考）也（考）也（考）也（考）也（考）也（考）也  
百（考）也（考）也（考）也（考）也（考）也（考）也（考）也  
は（考）也（考）也（考）也（考）也（考）也（考）也（考）也











































Handwritten text in a cursive script, likely a historical record or a list of names. The text is written in a dense, flowing style characteristic of Edo-period Japanese calligraphy. It appears to be a list of names or titles, possibly related to a specific event or location, given the context of the adjacent page's title.

諸君等申す者... 小川 吉右衛門  
Handwritten text in a cursive script, likely a historical record or a list of names. The text is written in a dense, flowing style characteristic of Edo-period Japanese calligraphy. It appears to be a list of names or titles, possibly related to a specific event or location, given the context of the adjacent page's title.

上上吉川 小川 吉右衛門

Handwritten text in a cursive script, likely a historical record or a list of names. The text is written in a dense, flowing style characteristic of Edo-period Japanese calligraphy. It appears to be a list of names or titles, possibly related to a specific event or location, given the context of the adjacent page's title.































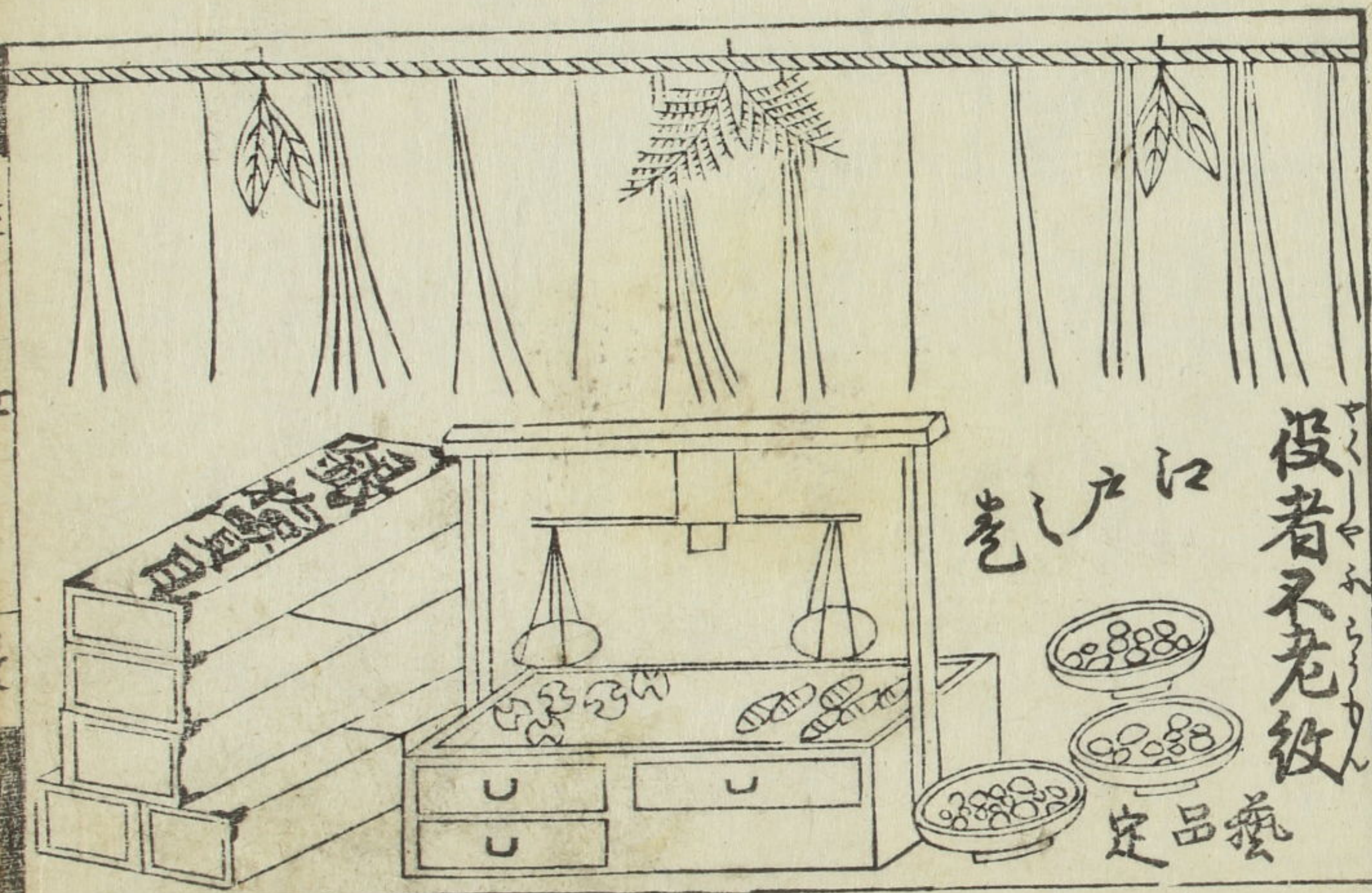








老  
工



役者不老紋

江戸

定品

上上吉

嵐  
五  
年

以上

上上吉 嵐 豊 本 云  
 上上吉 市 山 家 三 席 日 光  
 上上吉 嵐 去 次 席 日 光  
 上上吉 清 尾 跡 古 席 三 舞  
 上上吉 山 下 八 百 落 日 光  
 上上吉 三 株 長 八 席 茶  
 右 立 没 家 頭 敷 没 女 形 之 印  
 喉 下 下 下 又 喜 承 子 様  
 持 下 下 下 下





新見世よ

名と名辨

拙くは

三味乃

新へてんびん

おたて

指を轂又

ありかゝる

見物と

細中ねの

ぬき

江戸芝居敷設者同縁

この町 中村勘三郎往

ふき石町 市村勝九郎往

こびた町 栗田勘弥往

▲立役之部

○凡そおのりよきものぞ

森主書 市川圓十郎 中村九

上上吉 坂田半八郎 白

上上吉 市川吉蔵 中村九

上上吉 大谷 廣 中村九

上上吉 松平春四郎 中村九

上上吉 市川八百蔵 日

上上吉 市川八百蔵 日

上上吉 市川八百蔵 日

上上吉 市川八百蔵 日

上上吉 市川八百蔵 日

上上吉 市川八百蔵 日

上上吉 市川八百蔵 日



上上書 坂東又右衛門 中村

上上書 坂田又十郎 中村

上上書 市川源又右衛門 中村

上上書 松平秀十郎 中村

上上書 尾上菊又右衛門 中村

上上書 中村秋右衛門 中村

上上書 中村仲 中村

上上書 坂田佐十郎 中村

上上書 中村三南 中村

上上書 中村三南 中村

▲ 歌後之部

上上書 中村助又右衛門 中村

上上書 大谷友右衛門 中村

上上書 富沢守三郎 中村

上上書 市川伴達 中村

上上書 中村勤九郎 中村

上上書 坂東又 中村

上上書 坂田又 中村

上上書 松平又 中村

上上書 市川又 中村

上上書 坂東又 中村

上上書 坂田又 中村

上上書 坂東又 中村

上上書 坂田又 中村



上上 大谷廣益中 上後藤浦中  
上坂中長治中 上中村中  
上中村友十郎中 上河川六十郎中  
上山中平十郎中 上坂田大右市

上上 ▲道外形之部  
市川久益 中村

上 中村信又郎 中村

上上 ▲取江形之部  
山中平九郎 中村

上上 依川彩九郎 中村

上上 ▲花車形之部  
市川盛三郎 中村

上上 ▲若女形之部  
市川菊之助 中村

上上 中村友代三郎 中村

上書 中村 玄江 中村

上上 尾上 玄助 中村

上上 嵐 雛 治 中村

上上 河川七 益 中村

上上 河川雄治郎 中村

上上 尾上 氏 益 中村

上上 小佐川 常 益 中村

上上 市川 三 治 中村

上上 坂本 孝 益 中村

上上 正沢村 孝 益 中村

上上 吾妻 益 中村

上上 四井 益 中村



卷之四

上吉 芳沢傍之助 中村元

親等の出づるべき水跡

▲名流形之部

上上吉 依野川市松 中村元

右野川よりなる山鳥

上上吉 市川 森 彦 中村元

右一史又公ハ此す此

上上 沢村 彦 中村元

上 市川 雷 彦 中村元

一上市川 森 彦 中上中村元 彦 中

一上中村 秋 彦 中

▲子波之部

上上 市川 吉 彦 中村元

上上 市川 三 彦 中村元

上 坂 彦 中村元

一上谷 彦 中村元

一吉田 彦 中村元

一市川 彦 中村元

一市川 彦 中一松 彦 中

一市川 彦 中一市川 純 彦 中

一沢村 福 彦 中一中村 七 彦 中

一坂 彦 彦 中一坂 彦 彦 中

一坂 彦 彦 中一坂 彦 彦 中

一坂 彦 彦 中一坂 彦 彦 中

▲中村社及子之分

一市川 彦 彦 中一市川 九 彦 彦 中

一沢村 彦 彦 中一市川 仙 彦 彦 中

一芳 彦 彦 中一市川 林 彦 彦 中

一中村 仙 彦 彦 中一市川 彦 彦 中

一市川 彦 彦 中一市川 彦 彦 中

▲市村社及子之分

一市川 彦 彦 中一市川 彦 彦 中

一市川 彦 彦 中一市川 彦 彦 中

一市川 彦 彦 中一市川 彦 彦 中

一市川 彦 彦 中一市川 彦 彦 中

一市川 彦 彦 中一市川 彦 彦 中



▲若くは夫之末  
上上吉 中村傳九郎

上上吉 市村 龜 若  
子後 傳判り入とくさある 略

上上吉 市村吉八郎  
子後 久下ろつたきよととてまて 顔加

真上吉 中村七三郎  
東松の邊へゆこうと約

▲若くは夫之末  
藝不出 中村勘三郎

大上吉 市村時九郎  
其辰を奪うとてし子孫盛

口上

一ゆてはひりやまるとも本控所長向長下後  
老いせし高き不は難く世程之勢延びし  
及ふとては松若老若高は所程之天  
名譽し平まるとも高きは難く世程之勢  
延びしとては高きは難く世程之勢

○ 高雲井弦 四番續

▲五波実悪敵波形歌

富沢辰十郎  
沢村在十郎  
大谷後左衛門

嵐七又郎  
坂本三津又郎  
笠原又九郎

中村三郎  
中村大左衛門  
市川昭左衛門

沢村定十郎  
坂本秀又郎  
尾上政彦

尾上政彦  
尾上政彦  
尾上政彦

坂本定十郎  
大若大八

一我中のきり













































常花榮鉢樹

中村松江



所より

市川

八百巻

山五郎

中村仲義

山五郎

中村仲義

中村仲義

中村仲義

中村仲義

中村仲義

中村仲義

中村仲義

中村仲義

中村仲義

中村仲義

中村仲義

中村仲義

山五郎

中村仲義

山五郎

中村仲義

山五郎

中村仲義

山五郎

中村仲義

山五郎

中村仲義

山五郎

中村仲義

山五郎

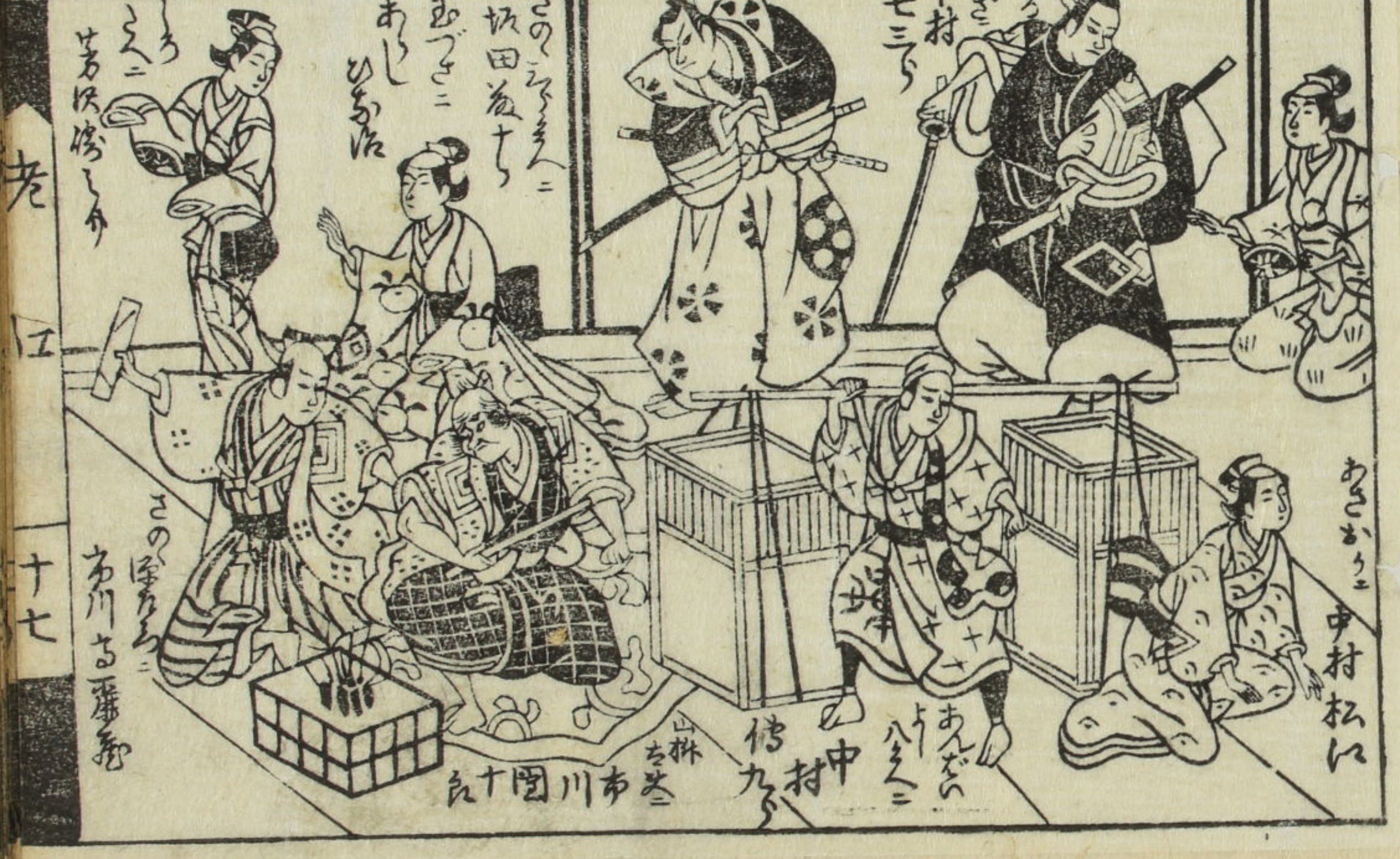
中村仲義

山五郎

中村仲義

山五郎

中村仲義



中村

七三

中村

七三

中村

七三

中村

七三

中村

七三

中村

七三

中村

七三

中村

七三

中村

七三

中村

七三

中村

七三

中村松江

中村松江

中村松江

中村松江

中村松江

中村松江

中村松江

中村松江

中村松江

中村松江

中村松江

中村松江

中村松江

中村松江

中村松江

中村松江

中村松江

中村松江

中村松江

中村松江

中村松江

中村松江

中村松江

中村松江

中村松江

中村松江

中村松江

中村松江

中村松江

中村松江

中村松江

中村松江

中村松江

中村松江

中村松江

中村松江

中村松江

中村松江

中村松江

中村松江

中村松江

中村松江

中村松江

中村松江

老

十七

中村松江







































魚... 出...

上上世 ① 大谷友右衛門

集... 遠...

分... 交...

竹... 交...

と... 交...

女... 交...

初... 交...

の... 交...

公... 交...

老... 交...

く... 交...

金... 交...

上上世 ② 高沢三郎

略... 後...

の... 交...

の... 交...

上上回 市川海運彦

結... 原...

後... 交...

上上 中...

鳥... 交...

よ... 交...

没... 交...

後... 交...

上上 東...

考... 交...

交... 交...

わ... 交...



























小徳の世のうらむる術は深め暮るもの  
老と悟とをては焼鉄とをの世をさすは深れ  
あまのうらむる術は深め暮るもの

上上 ⑤ 沢村俊又師 市村元

⑥ 市川雷兵衛 市村元

上 ⑦ 市川雷兵衛 市村元

⑧ 市川雷兵衛 市村元

上上 ⑨ 市川雷兵衛 市村元

⑩ 市川雷兵衛 市村元

▲ 養老夫之部

上上吉 ⑪ 市川雷兵衛 市村元

⑫ 市川雷兵衛 市村元

⑬ 市川雷兵衛 市村元

⑭ 市川雷兵衛 市村元

⑮ 市川雷兵衛 市村元

⑯ 市川雷兵衛 市村元

⑰ 市川雷兵衛 市村元

上上吉 ⑱ 市川雷兵衛 市村元

⑲ 市川雷兵衛 市村元

⑳ 市川雷兵衛 市村元

㉑ 市川雷兵衛 市村元

㉒ 市川雷兵衛 市村元

真上上吉 ㉓ 市川雷兵衛 市村元

㉔ 市川雷兵衛 市村元

㉕ 市川雷兵衛 市村元

㉖ 市川雷兵衛 市村元

㉗ 市川雷兵衛 市村元







○改取出

一東田社殿在延和十餘年... 中吉及改取出...

上上吉 富沢辰十席

上上吉 沢村在十席

上上吉 大谷辰十席

上上吉 坂東三津又席

上上吉 市川昭右席

上上吉 中村大老席

上上吉 沢村空十席

上上吉 坂東秀一上尾上改取

上上吉 中村慶八席 上坂東利根

上上吉 大谷大八上堀川系七

上上吉 坂東定十席

上上吉 坂東定十席

上上吉 尾田東老席

上上吉 岩井半右席

上上吉 尾小式部

上 日 尾登十次席

上 日 伏見川系八

上 日 市川因吉席

上上吉 虎回又次席

上上吉 虎回助 跡

大坂 尾七又席

日 尾登又九席

日 山下金作

日 中村四郎八席

右 尾登月十六日... 中上坂内同又...

上上吉 富沢辰十席

上上吉 尾登又九席

上上吉 山下金作

上上吉 中村四郎八席

上上吉 尾登月十六日...

上上吉 中上坂内同又...







とあるの事ありては、  
凡そ万端を盡すべしと云ふ事ありては、  
かゝるに相成るの氣を同様に察するべし  
上上吉 ④ 夷回劫 弥  
[醫] 以後の事を知るに、  
ひたすら其の要をみるべしと云ふ事ありては、  
凡そ万端を盡すべしと云ふ事ありては、  
かゝるに相成るの氣を同様に察するべし  
とあるの事ありては、

明治七年

寅正月吉日

東京市可也六丁目一

八文字堂公衆門板



